# 活動報告

フューチャー イノベーション フォーラム

## 2013年度

## 表紙について

フュー チャー イノベーション フォーラムが大切にしている未来への希望、
挑戦することの楽しさ、様々な人びととのつながりを虹色のグラデーションで
表現しています。写真は2013年度に実施した活動の一コマです。

# Contents


FIF特別鼎談 2

FIFについて 4

2013年度活動報告 6

特集 子どもたちの成長を見つめて

Future KidsとCCC増田社長 8年ぶりの再会 6

追跡アンケート調査結果 9

会員向け企画

アドバイザリーボードインタビュー「Future Wind」 10

イノベーションワークショップ2013 11

キッズ企画

職業体験プログラム 16

物流の最前線 17

セキュリティの最前線 18

参加者の声 19

職場訪問デー 20

復興支援活動「スマイルプロジェクト」

石巻ボランティア 22

イベント運営協力「東京へようこそ! 1泊2日ツアー」 22

プレスクリッピング集 23

フューチャー イノベーション フォーラム

# 特別鼎談

フューチャー イノベーション フォーラム代表による新春恒例の特別鼎談。
今回は衆議院議員の茂木敏充氏を迎えて、2013年を振り返りながら今後の展望と課題を語っていただきました。

衆議院議員
経済産業大臣

ウシオ電機株式会社
代表取締役会長、FIF代表

フューチャーアーキテクト株式会社
代表取締役会長兼社長、FIF代表

## 茂木 敏充 × 牛尾 治朗 × 金丸 恭文

### 産業の新陳代謝を

**金丸**　2013 年はアベノミクスで株価が上昇し、企業収益が全般的に改善しました。日本経済の復興を確かなものとするためには今後何が必要でしょうか？

牛尾　まずは TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）の交渉をしっかり行い、グローバル競争力を高めることです。そのためには官民が一体となって取り組まなければなりません。

**茂木**　護送船団方式はもう世界では通用しません。かつて横並びだった金融業界が大改革によって世界と渡り合える競争力をつけたように、農業も自由に競争できる環境が必要です。そのなかで切磋琢磨して良い商品をつくっていけば、流通や製造など他業種からの参入も増え、そのノウハウを取り入れることで農業の付加価値が高まっていくと思います。

**金丸**　日本の企業は、「経営力」よりも「現場力」が優れていると言われています。問題や課題に対して知恵やアイデアを絞り、試行錯誤しながら解決していく強さが現場にあります。しかし農業の場合、農家の人たちには自ら考えて行動する自由はありません。すべての物事は大きな中央組織が決め、補助金と引き換えにその決定に従ってきました。これでは「現場力」も若い後継者も育ちません。

**茂木**　日本経済の復興には、規制改革と産業の新陳代謝を進めていくことも非常に重要です。いま政府はアベノミクス 3 本目の矢として、民間投資を喚起する成長戦略の策定に取り組んでいます。その一環として 1 月 20 日に施行された「産業競争力強化法」は、規制が参入障壁となってきた事業分野に挑戦する事業者を支援するための新たな法案です。先進的な取り組みを行っている企業に対して規制を緩和し、様々な規制においてグレーゾーンになっている部分をクリアにすることで、成長分野への新規参入や事業の再編を図りたいと考えています。

**金丸**　日本では収益が悪化して将来性が見込めなくなっても、事業の撤退や売却という決断はなかなかしません。企業の新陳代謝を促し、新しいビジネスにいち早く取り組めるような制度設計を、スピード感をもってつくっていく必要があります。

**牛尾**　欧州は EU の統合、米国は M&A（合併・買収）の発展によって企業の統廃合がかなり進みました。日本でもこの法案をきっかけに産業の再編が起こることを期待します。

## 転換期を迎えたエネルギー問題

**茂木**　東日本大震災以降、エネルギーコストが膨らみ続けています。エネルギーの効率的な消費や調達先の多角化は急務です。米国やカナダではシェールガスの開発が相次いでいます。日本企業が米国で参画している全てのプロジェクトに対して米国政府から輸出許可が下り、2017年から順次輸入される予定です。近い将来、日本のLNG（液化天然ガス）消費量の2割程度をシェールガスで賄えるようになれば、LNGの主な輸入先である中東に対しても価格交渉力を持つことができます。

**牛尾**　そうなれば日本のエネルギーコストも下がるでしょうし、新しい産業が生まれる可能性も期待できますね。

**金丸**　いま世界では、エネルギーをトータルで管理するシステムの開発が熾烈を極めています。昨今、スマートメーターの導入が進められていますが、各家庭からあがってくる情報を瞬時に分析し、電力供給にフィードバックするシステムをどう構築していくか、次の主導権を握ろうと米国や欧州でソフトウエアの開発競争が繰り広げられています。日本も乗り遅れてはなりません。

## 勇気をもって未来を選択せよ

**牛尾**　個人も組織も変革を進めていく上で様々な選択を迫られます。いったい何を優先して選ぶべきか、経営学者のピーター・ドラッカーは40年以上も前に書いた著書のなかで示唆に富んだ原則を示しています。
第一に「過去ではなく未来を選ぶ」、第二に「Problem（問題）ではなくOpportunity（機会）に焦点を合わせる」、第三に「横並びではなく独自性を持つ」、第四に「無難で容易なものではなく変革をもたらすものを選ぶ」。（『経営者の条件』より引用）

**金丸**　今でもまったく色褪せないですね。

**牛尾**　そして経営の選択は、知恵や見識ではなく、経営者の勇気の問題だと言っています。

**茂木**　1970年代、日本は二度の石油危機に直面しましたが、それを乗り越える過程で世界に冠たる省エネ技術、省エネ社会を確立しました。震災以降、新たなエネルギー制約が生まれていますが、これも見方を変えればOpportunityだと思います。

**金丸**　たとえばどのようなことですか？

**茂木**　太陽光や風力などの再生可能エネルギーの導入には、電力を安定供給できる大型蓄電池が必要です。いま蓄電池の市場規模は1兆円ですが、電気自動車の普及や電力系統での利用により2020年には20兆円になると見込まれています。世界最先端の蓄電技術を持つ日本が仮に5割のシェアを獲得すれば、その額は10兆円と、日本のGDP（国内総生産）の2%をたたき出すことになるのです。それこそ知恵や見識ではなく、やるか、やらないか意志の問題です。

**金丸**　そうですね。リスクをとって挑戦しなければ成長はありません。

**牛尾**　日本はもうすぐ世界で経験したことのない超高齢社会を迎えます。ある意味Problemですが、これをどうOpportunityとしてとらえて新しい都市を築いていくか。東京オリンピックが開催される2020年には生まれ変わった日本を世界に披露したいですね。女性や若者、高齢者や外国人も生き生きと働ける社会の実現に向けて、リーダーには行動してほしいと思います。

（2014年1月17日実施、文中敬称略）

文責：Future Innovation Forum

**茂木 敏充**（もてぎ としみつ）
東京大学経済学部卒。1983年米ハーバード大学大学院修了。丸紅、読売新聞社、マッキンゼー社を経て、93年衆議院議員に初当選。金融･行革担当大臣、自民党政調会長等を歴任。

**牛尾 治朗**（うしお じろう）
東京大学法学部卒。1953年東京銀行入行。64年ウシオ電機設立。経済同友会代表幹事、経済財政諮問会議議員などを歴任。日本生産性本部会長。経済同友会特別顧問（終身幹事）。

**金丸 恭文**（かねまる やすふみ）
神戸大学工学部卒。1979年TKC入社。89年ﾌｭｰﾁｬｰｼｽﾃﾑｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ（現ﾌｭｰﾁｬｰｱｰｷﾃｸﾄ）設立。規制改革会議委員。高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部本部員。

# FIFについて

## ◆ ITイノベーションで人と社会を豊かに

**フューチャー イノベーション フォーラム（略称：FIF）は、フューチャーアーキテクト株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役会長兼社長：金丸恭文）が運営する社会貢献活動団体です。約670の協力企業・団体の社員を中心とした会員組織で、会員数は約1,150名（2013年12月末現在）にのぼります。会員向けのワークショップやセミナーをはじめ、多くの企業と協力し、子ども向けの体験型イベントを企画・運営しています。**

## 設立趣旨

ＦＩＦは“ＩＴイノベーションによる豊かな社会づくり”を目的に、2006年１月に設立されました。
活力ある社会を築くには、これまでの延長線上にはない変革を起こすことが不可欠です。ＦＩＦは変革の担い手となる次世代リーダー育成の場となるべく、ビジネスパーソンや子どもたちを対象にした活動を行っています。

## 活動内容

ＦＩＦの活動は大きく「会員向け企画」と「キッズ企画」があります。会員向けは最新のビジネステーマを取り上げたワークショップやセミナーを開催しており、キッズ向けは子どもたちの「学ぶ」「楽しむ」「ワクワク感」を大切にしたプログラムを実施しています。また東日本大震災直後から継続して復興支援活動に取り組んでいます。
次世代リーダーを育成し、子どもたちの創造力や可能性を広げることが、ＦＩＦの使命です。

### 会員向け企画

**次世代リーダーを育成し
日本の未来に活力を！**

- 会報誌「Future Wind」
- ワークショップ セミナー

### キッズ企画

**未来を担う子どもたちの
夢・可能性を広げよう！**

- 職業体験プログラム
- 追跡アンケート調査

### 復興支援活動

**子どもたちの笑顔で
東北を元気に！**

- 石巻ボランティア
- イベント運営協力

## アドバイザリーボード

活動にあたっては、各界でご活躍のトップの方々をアドバイザリーボードに招いて年に一度会合を開き、活動に対する意見やアドバイスをいただいています。ボードメンバーは以下のとおりです。

| | |
|---|---|
| **明石　勝也** | 聖マリアンナ医科大学 理事長 |
| **伊藤　元重** | 東京大学大学院 経済学研究科 教授 |
| **牛尾　治朗** | ウシオ電機株式会社 代表取締役会長 |
| **金丸　恭文** | フューチャーアーキテクト株式会社 代表取締役会長兼社長 |
| **川本　裕子** | 早稲田大学大学院 ファイナンス研究科 教授 |
| **栗和田榮一** | 佐川急便株式会社 会長 |
| **小島　順彦** | 三菱商事株式会社 取締役会長 |
| **鈴木　茂晴** | 株式会社大和証券グループ本社 取締役会長 |
| **張　富士夫** | トヨタ自動車株式会社 名誉会長 |
| **中西　勝則** | 株式会社静岡銀行 代表取締役頭取 |
| **新浪　剛史** | 株式会社ローソン 代表取締役社長CEO |
| **藤沢　久美** | シンクタンク・ソフィアバンク 代表 |
| **藤森　義明** | 株式会社LIXILグループ<br>取締役 代表執行役社長兼CEO |
| **増田　宗昭** | カルチュア・コンビニエンス・クラブ<br>株式会社 代表取締役社長兼CEO |
| **三木谷浩史** | 楽天株式会社 代表取締役会長兼社長 |
| **渡　　文明** | JXホールディングス株式会社 相談役 |

（2013年12月末現在 氏名50音順敬称略）

アドバイザリーボードミーティングにて（2013年6月）

## 2013年度の活動実績

2013年度は教育現場や保護者の要望を受け、新たに中学生向けキャリア教育の場「職場訪問デー」を実施したほか、過去のイベント参加者と8年ぶりに再会する新たな取り組みを行いました。また、会員向け企画では、イノベーションによって国力をあげている各国の事例を学ぶワークショップを開催しました。

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **全　体** | 1/23 特別鼎談 | | | 12年度 活動報告書 発行 | | 6/25 第7回 アドバイザリーボード ミーティング | | | 会報誌 第11号発行 | | | |
| **会　員** | | | | | | | 7/22 第1回 ワークショップ | | 9/10 第2回 | 10/10 第3回 | 11/14 第4回 | |
| **キッズ** | | | 3/28 物流の最前線 | | | | 8/7 セキュリティの最前線<br>NEW 8/8,19,20 3社合同「職場訪問デー」 | | | | | 2014年 1/31 CCC 増田社長 再会イベント |
| **復興支援** | | 2/8-9 第10回 石巻 ボランティア | 3/15-16 第11回 | | | 6/21-22 第12回 | 7/25 イベント 運営協力 「東京へようこそ! 1泊2日ツアー」 | 8/23-24 第13回 | | | | |

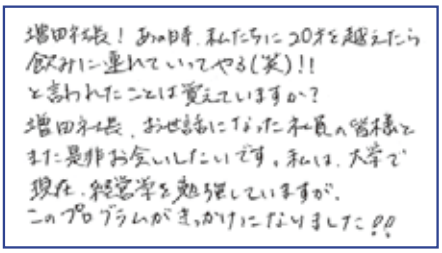
# 特集 子どもたちの成長を見つめて
# Future KidsとCCC増田社長 8年ぶりの再会

**2014年1月31日(金)、2006年夏に実施した職業体験プログラム「エンターテインメント発信現場の最前線」でカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社を訪れた金古浩美さんと佐藤弘崇さんが8年ぶりに同社を訪問し、増田宗昭代表取締役社長と再会しました。二人の母校である共愛学園高等学校(群馬県前橋市)の後輩や当時二人を引率した岩崎繁先生も加わり、楽しいひと時を過ごしました。**

■日　時:2014年1月31日(金)18:00〜20:30
■場　所:カルチュア・コンビニエンス・クラブ東京本社
■プログラム
①『ライフスタイルを豊かにする新サービス』アイデア発表
②オフィス見学
③懇親会
④代官山T-SITE見学ツアー

## 「増田社長、覚えていらっしゃいますか?」

FIFでは、職業体験がその後の子どもたちの成長にどのように影響しているのかを確かめるため、追跡アンケート調査を行っています。
今回の再会は、「エンターテインメント発信現場の最前線」(2006年8月29日実施)に参加した金古浩美さんの増田社長にあてたメッセージがきっかけとなり、実現しました。


増田社長！あの日、私たちに20才を越えたら飲みに連れていってやる(笑)!!と言われたことは覚えていますか？
増田社長、おせ話になった社員の皆様とまた是非お会いしたいです。私は、大学で現在、経営学を勉強していますが、このプログラムがきっかけになりました!!

金古さんのメッセージ

当時の様子

## お互いの成長を確かめ、今後の成長の糧に

せっかく再会するのだから、お互いの成長を確かめる場にしよう――。参加者は増田社長に向けて、「ライフスタイルを豊かにする新サービス」の企画をプレゼンするため、CCCの8年間の軌跡をたどり、増田社長の著書を読んで準備を重ねてきました。

『情報楽園会社』
増田社長の著書

当日、会場に現れた増田社長は開口一番、「今日の目的は、『約束は守る』ということ」と全員に笑顔を向けました。
「あれから8年、当時高校生だった人たちが今、第一線で働いている。これはものすごい成長ですよ。その間、どんなことを考えてきたのか、そして、これから社会を担っていくものとして、『どんな社会をつくろうとしている』のか。これはぜひ聞いてみたい。CCCも8年でそれなりに成長してるし、今日はお互いに、今後の成長の糧にできる場にしたいね」
そんな言葉で会がスタートしました。

### 増田 宗昭 Muneaki Masuda

カルチュア・コンビニエンス・クラブ
株式会社 代表取締役社長兼CEO

全国に約1,500店舗あるTSUTAYAやTカード、代官山 蔦屋書店などライフスタイルを豊かにする様々な事業を展開。
座右の銘は「利他の心」。

### 金古 浩美 Hiromi Kaneko

今回の企画の立役者。高校・大学時代からニュージーランドや中東、欧州など多くの留学経験を持つ。今回の発表もそんな経験に基づいたもの。真のグローバルリーダーを目指している。2013年4月より日産自動車株式会社勤務。

# アイデア満載のプレゼンで豊かなライフスタイルを提案！

## 「ライフ・アーカイブ」▸佐藤 弘崇

**父から子へ蔵書を引き継ぐように、デジタルコンテンツを伝えていきたい**

自身が多くのデジタルコンテンツを利用するなかで、「もし自分がいなくなったら電子書籍や音楽のデータはどうなるんだろう？」と疑問に思い、人がどのような本を読み、どんな音楽を聴いていたのかを次世代につなげる方法があればいいなと考えた。昔、お父さんやおじいさんの本棚から多くを学んだように、たとえば、Tカードのアカウントを継承することで、蓄積されたデジタルコンテンツを閲覧するサービスが提供できるのではないかと思った。自分自身もその記録を後世に残すことで、“電子家系図”としての役割を果たす。この『ライフ・アーカイブ』によって、場所をとらずに父の本棚を復活させることができる。

## 「グローバル・サロン・サービス」▸金古 浩美

**SNSが世界を結んでいる時代だからこそ、真のHuman Networkを築きたい**

高校・大学時代に何度も海外へ行き、留学も経験した。海外の友人もたくさんできて頻繁にSNSで情報を共有していたが、それに時間を取られてしまい、本当に大事なのはFace to Faceのコミュニケーションではないかと感じた。そして世間で言われるグローバル人材育成の基盤として、会員制のサロンを構築するサービスがあればいいなと思った。お金を払って会員になるのではなく、紹介で会員になるルールを設けることで、入会するために自分も努力し、切磋琢磨し合える友だち＝『Potential　Friends』と多く出会える場ができるはず。そういった環境があれば自分自身も成長していけるのではないかと思う。

**増田社長より一言**

**佐藤君のアイデアは事業としての可能性を秘めている。検索代行サービスやデータの相続などは、今後新しいビジネスが期待できる分野として注目されている。金古さんのアイデアはとてもリッチ。金銭的にということじゃなく、インフォメーション・リッチ。代官山 蔦屋書店もそういう場になればと思ってつくったので、コンセプトにとても共感できる。2人のアイデアに共通するのは、デジタルの世界だけじゃない『心の豊かさ』の追求。そういったことを若い世代が考えていることに感動したし、素晴らしい視点だと思った。**

# オフィス見学会

プレゼンが終わったあとは、増田社長がオフィスを案内してくれました。社員食堂はおしゃれなカフェテリア形式。好きなメニューをトレイにのせて精算カウンターに行くと、値段とカロリーが表示され、社員証をカードリーダーにかざせば精算できるという仕組み。続いて吹き抜けの階段を下りると、開放感あふれる執務フロアに多くの雑誌が並んでいます。社長室はなく、増田社長も社員のすぐ横で仕事をしているとのこと。自由な発想を大切にする社風が表れています。

リラックス＆リフレッシュできる社員食堂

執務フロアにも工夫がいっぱい！

ここが増田社長の仕事場


佐藤 弘崇 Hirotaka Sato

高校卒業後、慶應義塾大学大学院で日本のインターネット第一人者である村井純教授の薫陶を受ける。2013年4月よりKDDI株式会社勤務。ネットワークの専門知識と持ち前の優しさを活かした見事なプレゼンテーションを披露。

蜂谷由梨奈 Yurina Hachiya

慶應義塾大学総合政策学部3年生

共愛学園高校時代は新聞部に所属。今回の企画を知り、強く参加を希望した。オフィス見学の際、社員のみなさんが自然に立ち上がり、笑顔で迎えてくれたことに大感激。

## 将来の夢を語り、「利他の心」に感銘

懇親会では、今日の再会をきっかけにまた夢に向かって走れるよう、参加者がそれぞれの夢を発表しました。増田社長はみんなにエールを送るとともに、自身の高校時代のことやTSUTAYAを始めようと思ったきっかけ、仕事へのモチベーションについて話してくれました。
「今は『利他の心』を大事に仕事をしている。『求めよ、さらば与えられん』というけれど、知らないことを求めることはできないでしょ？　人間は基本的に怠け者だから、知らない情報を積極的に取りにいこうとしない。だから引率してくれた岩崎先生のように、いろいろな機会を与えてくれる指導者が必要なんだよ。俺みたいな社長とかね（笑）。生徒や部下に成長してほしいと思うからやっていること。相手のことを考える気持ちが大切なんだ。若いうちはわからないかもしれないけど、たとえば家族や恋人のためでもいい。『この人のためにがんばろう』という気持ちが人間を動かすモチベーションの源だと思う。成長とともにその気持ちは同心円的に広がっていくということを自分自身の経験からものすごく感じている。CCCは『ライフスタイルを提案する企画会社』だけど、それだって利用する人の役に立つ企画でなければ意味がない。みんなにもぜひ『利他の心』をもって社会で活躍してほしい」

「誰かのために仕事するときって損得抜きですよね」
（佐藤さん）

参加者に求められて始まった即席サイン会

## 代官山 蔦屋書店見学ツアー

最後にCCC本社からほど近い代官山T-SITE（蔦屋書店を中心とした「大人が楽しめる」複合施設）を見学しました。「我々の世代は一生懸命働いてきた。でも働きすぎて上手なお金の使い方を知らない。じゃぁここで、趣味や自己実現のために何をすればいいのかを教えてあげようっていうわけ」と笑顔で語る増田社長。それぞれの店舗のサービスやコンセプトをくまなく紹介してくれました。
参加者からはたえず驚きや感動の声があがり、約1時間のツアーが終了しました。

## 参加者のみなさんから

**金古さん：** まさかアンケートの声を拾ってもらえると思っていなかったので、このような再会が実現して本当に感激しました。
「利他の心」を忘れずに、毎日を過ごしたいと思います。

**佐藤さん：** 社会に出て迷うことが多かったのですが、今日は社会人として人間としての生き方を見つめ直すことができました。
とても刺激的な時間でした。

**蜂谷さん：** もうすぐ社会人になる私にとって、社会のことを勉強するまたとない機会になりました。

**田中さん：** 新聞部の部長として、また3年生の最後の仕事として、今日の出来事と感動を後輩たちにしっかり伝えたいと思います。

**岩崎先生：** いつも生徒に言っている「挑戦することの素晴らしさ」に年齢は関係ないと改めて思いました。ありがとうございました。

### 田中 七生　Nanami Tanaka
共愛学園高等学校3年生

新聞部の現編集長として、この再会イベントに取材参加。先輩たちの活躍と初めて訪れた代官山　蔦屋書店にとても感銘を受けた。2014年春から立教大学に進学予定。

### 岩崎 繁　Shigeru Iwasaki
共愛学園高等学校教諭

2006年の職業体験に新聞部顧問として金古さん、佐藤さんを引率。生徒の成長と可能性の実現のため様々な課外教育を実践し、生徒からの信望も厚い。今回も生徒の成長した姿に大満足。

2008年度のイベントに参加した子どもたちに

# 5年後の追跡アンケート調査！

「今でも心に残っていることはなんですか？」「イベントに参加して生活や進学に何か変化はありましたか？」といった質問をしました。調査の結果、回答者の約半数が「その後の考え方や生活に影響があった」と回答し、9割を超える子どもたちが「今でも心に残っていることがある」と答えています。
5年後の子どもたちの声を紹介します。

（回答数35、回答率33%）

## 物流の最前線（佐川急便株式会社） 08年3月27日実施

◆荷物が届くしくみがわかった。自分で梱包した荷物がちゃんと届いたのがうれしかった。

◆大変だけどとてもやりがいのある仕事だなと思ったのを今でも覚えています。

## エネルギーの最前線（新日本石油株式会社 現:JX日鉱日石エネルギー株式会社） 08年7月31日実施

◆石油タンカーに乗ったこと。二度とできない体験だと思う。

◆仕事は1人の力ではできないこと、すべての労働に意味があることがわかりました。この体験を生かして将来の夢に向かって頑張りたい！

## カーデザインの最前線（トヨタ自動車株式会社） 08年8月4日実施

◆みんなと一緒に車のアイデアを考え、デザイナーの方からアドバイスをいただいた。ありがとうございました。

◆参加したことで環境に興味をもった。今は環境について学ぶ高校に通っています。

## 空間デザインの最前線（株式会社コスモスイニシア） 08年8月24日実施

◆ほかの参加者やスタッフの方と交流しながら楽しくつくったのを覚えています。

## パソコン組み立て教室（株式会社大分銀行との共催） 08年2月16日実施

◆初めてパソコンの中身を見ておもしろいと思った。

◆数学や理科が得意科目となりました。将来は理数系の大学へ行きたいと思っています。

## ロボットカーレース（品川区立立会小学校、日野学園） 08年6月14日、9月6日実施

◆パソコンが好きになりました。これからC言語に挑戦する予定です。

◆“技術立国”日本を立て直すには、このような活動の積み重ねが大切だと思います。

## スーパーへGO! in 新潟（株式会社魚栄商店） 08年8月2日実施

◆店内放送で緊張したことを覚えています。

◆普段見えないところでも働いている方がいて、その方々のおかげで見えている部分ができているということがわかりました。

会員向け企画

■次世代リーダーを育成し、日本の未来に活力を

# アドバイザリーボード インタビュー「Future Wind」

「Future Wind」は2009年に創刊したFIFの会報誌です。アドバイザリーボードメンバーの方々のこれまでの経験やリーダーとして大切にしていること、これからリーダーを目指す人たちへのメッセージなどを掲載しています。2013年度に発行した第11号には、株式会社LIXILグループ藤森義明社長のインタビューを掲載しています。

## テーマ｜今の時代だからこそ求められるリーダー像

### 第11号　株式会社LIXILグループ 社長兼CEO　藤森 義明　様

**これからリーダーを目指す人たちへメッセージを。（一部抜粋）**

これからの日本には、女性の台頭や海外からの優秀な人材流入など様々な人びとが混ざりあうダイバーシティの社会が訪れるでしょう。ダイバーシティの高い環境は、どんな人にも均等に機会が与えられると同時に競争原理がはたらき、実力主義が支配します。これまでの「しくみ」はどんどん変わっていき、自分が強くならないと淘汰されていくのです。
淘汰されないためには「専門性」と「リーダーシップ」が必要です。そして、常に高いところを見て、自分を成長させなければなりません。人間の潜在力は自分が考える力の何百倍もあるものです。だから自分は今これだけ努力しているのだから十分だと考えるのではなく、無限の可能性にチャレンジし、自分の力をもっと高めていくべきです。
発行：2013年9月

### バックナンバー

※社名・団体名、役職は発行当時

| | | |
|---|---|---|
| ◆創刊号 | フューチャーアーキテクト株式会社CEO／ＦＩＦ代表 | 金丸　恭文 |
| ◆第２号 | 新日本石油株式会社 会長 | 渡　文明 様 |
| ◆第３号 | 株式会社大和証券グループ本社 社長CEO | 鈴木　茂晴 様 |
| ◆第４号 | 三菱商事株式会社 社長 | 小島　順彦 様 |
| ◆第５号 | 早稲田大学 総長 | 白井　克彦 様 |
| ◆第６号 | 株式会社静岡銀行 頭取 | 中西　勝則 様 |
| ◆第７号 | 早稲田大学大学院 ファイナンス研究科 教授 | 川本　裕子 様 |
| ◆第８号 | トヨタ自動車株式会社 会長 | 張　富士夫 様 |
| ◆第９号 | 佐川急便株式会社 会長 | 栗和田榮一 様 |
| ◆第10号 | 株式会社ローソン 社長CEO | 新浪　剛史 様 |

会員向け企画

## ■ 次世代リーダーを育成し、日本の未来に活力を

# イノベーション ワークショップ2013

次世代リーダーの育成と会員同士の交流を深める場としてワークショップを開催しました。イノベーションで国力をあげている国々の事例を全4回にわたって学び、日本の強みを活かしたイノベーションのあり方を検証しました。また、ディスカッションでは各企業や業界における新たなビジネスの可能性について議論を重ねました。

## シリーズテーマ ｜ イノベーションで日本を強く

### ■ コーディネータ　サイバー大学IT総合学部教授　前川 徹 様

前川 徹 様

### ■ 開催実績（日時、テーマ、講師）

**【第1回】** 2013年7月21日(月) 18:00～20:00
**「未来を切り拓くIT ～デンマーク・エストニアにおけるIT活用戦略～」**
フューチャーアーキテクト株式会社会長兼社長、FIF代表　**金丸 恭文**

**【第2回】** 2013年9月10日(火) 18:00～20:10
**「米国における3D革命」**
経済産業研究所コンサルティングフェロー、一橋大学特任教授、電気通信大学客員教授　**安藤 晴彦 様**

**【第3回】** 2013年10月10日(木) 18:00～20:00
**「IT融合時代を迎えてあるべき姿の国家情報化」**
e-CORPORATION.JP株式会社代表取締役社長、総務省電子政府専門員、青森市情報政策調整監、佐賀県情報企画監　**廉（ヨム） 宗淳（ジョンスン） 様**

**【第4回】** 2013年11月14日(木) 18:00～20:00
**「我が国農業の可能性」**
慶應義塾大学環境情報学部准教授、医学部准教授（兼担）、内閣官房政府CIO補佐官、番号制度推進管理補佐官　**神成 淳司 様**

### ■ 参加企業

株式会社あおぞら銀行
株式会社アコーディア・ゴルフ
朝日信用金庫
味の素株式会社
株式会社アルペン
株式会社伊予銀行
インヴァスト証券株式会社
ウシオ電機株式会社
株式会社外為どっとコム
キッコーマン株式会社
株式会社QVCジャパン
佐川急便株式会社
ＪＸ日鉱日石エネルギー株式会社
ＪＦＥシステムズ株式会社
敷島製パン株式会社
株式会社静岡銀行
セントラル短資FX株式会社
全日本空輸株式会社
全日本食品株式会社
綜合警備保障株式会社
ソフトバンクモバイル株式会社
株式会社TSIホールディングス
日本航空株式会社
日本たばこ産業株式会社
株式会社ファンケル
マネックス証券株式会社
三井不動産株式会社
三菱商事株式会社
楽天株式会社
楽天証券株式会社
株式会社LIXIL
株式会社リクルートホールディングス
株式会社ローソン

（計33社、社名50音順）

第1回

# 未来を切り拓くIT

## ～デンマーク・エストニアにおけるIT活用戦略～

金丸 恭文

### 講義概要

政府の規制改革会議「健康・医療ワーキンググループ」では高齢化にともなう医療費増大は国の重要課題となっており、ＩＴ総合戦略本部でも「国のＩＴ戦略はどうあるべきか」「ＩＴでどのように世界と戦える日本をつくれるのか」ということをテーマに議論を重ねている。一国民として個々が真剣に考えるべき「医療・教育」についてデンマークで視察したＩＴ活用の取り組みを紹介する。

### ■ デンマークの医療・教育

デンマークはＩＴを国家戦略の中心として捉え、「医療」「教育」分野に特に力を入れることで国民に充実したサービスを提供している。医療分野では、医療従事者は患者の病状や治療に関する情報をデータベースに蓄積し、全国どこからでも参照できる。1994年に病院、薬局などの医療従事者、民間企業などが協力して情報を共有するネットワークをつくり、2003年には電子カルテの共有が始まった。利用できるサービスは病院予約から処方箋の更新、治療に関する学術記事の提供など広範囲にわたり、「オンラインリハビリテーション」や「ホームモニタリング」などＩＴを活用した効率の良い医療サービスが提供されている。

教育では自国の文化や歴史を尊重しながらＩＴという武器を使い、将来、世界と競争していくことを意識した教育が行われている。子どもたちは低学年からノートパソコンを持参し、問題を解くときも利用している。また個々の得意分野が伸ばせるよう、先生はクラスの一人ひとりに異なった問題を与え、考えることを課している。さらに体を動かしながらＩＴに触れ、問題を解くことを組み合わせた「デジタル・ターザン・プログラム」といった授業もあり、幼少期からＩＴリテラシーを高める教育がなされている。

### ■ エストニアのIT政策

エストニアは林業以外に大きな産業がなかったため、1996年から2000年にかけてＩＴとバイオを産業の中核としたプロジェクトを実施した。国会議員にはＩＴの理解者が多く、プロジェクトの推進にあたっては、デンマーク同様、まず教育分野の「教える」「学ぶ」プロセスにＩＴを広く取り込むことで、ＩＴ立国の基礎を確立した。また医療分野においても2010年に処方箋の電子化を導入し、公共サービスのデジタル化を目指した。

エストニアでは「国民IDカード」が広く普及しており、IDカードを保有していれば生まれたときからの健康情報をオンラインで確認できるほか、EU内パスポート、免許証や保険証の替わりとして使える。さらに公共交通機関のチケット購入や電子投票、インターネットバンキングなどあらゆるサービスに活用が広がっている。

### ■ 日本の課題と将来

日本は行政サービスの年間ＩＴサポート費用のうち約80％が保守運用に使われているため、攻めの投資ができないジレンマを抱えている。今後はシステムの統合・削減を行うことで保守・運用費を攻めの投資に転嫁できるよう向かわなければならない。また医療では、病院ごとに所管されシステムも異なる「電子カルテ」や「レセプト」を一元管理することで、効率的な医療サービスの提供を目指し、その情報を新薬開発に役立てることで世界との競争力を高めていくべきだ。

教育分野でも日本のＩＴ活用はかなり遅れている。世界では教育のなかにＩＴをうまく取り込み、小学校からプログラミングの授業を始めるなどＩＴ教育がスタンダードになりつつある。これからは日本も教育のなかにＩＴを取り入れ、世界と競争ＩＴリテラシーを子どもの頃から持つことが必要である。

### 参加者の声

- デンマークやエストニアの事例を臨場感をもって知ることができた。
- 日本との考え方、進め方の違いにショックを受けた。
- 将来の日本の医療、教育に対して危機感さえ覚えた。
- ＩＴの重要性を再確認し、日本における既得権益が促進の壁になっていることを実感した。
- このような企業を超えた活動を通して知らないことに“気づく”ことは、大きな価値となる。その気づきを今後成果につなげていきたい。

# 第2回　米国における3D革命

安藤 晴彦 様

## 講義概要

パーソナル3次元プリンタの登場で「新産業革命」が起きるという。誰でも自らのアイデアを容易に具現化できるため、これまで技術力でモノづくりを牽引してきた日本の危機感は強まっている。先進的な取り組みが行われる米国の現状を知り、“モノづくり復活の切り札”として日本が勝ち抜く戦略を検証する。

## ■『MAKERS』が提起する新産業革命の胎動

オバマ大統領は年初に3Dプリンタを活用し、次のモノづくり革命は“Made in America”にすると宣言した。一部の公共図書館ではすでに3Dプリンタを導入し、誰でも自由に使うことができるほか、3Dデザイン能力を幼少期から強化するため、小中学校の教育課程への導入も検討されている。3Dプリンタの技術開発だけでなく3Dデザイン能力を磨くことが、今後の鍵を握る。

クリス・アンダーソンの話題書『MAKERS』は、興味深いベンチャーを多く取り上げ「新産業革命」の到来を告げている。自ら創業したオープンソースハードウェア企業、クラウド型軍用車開発、3D設計データ提供サイトやクラウドファンディングの事例を紹介しており、三次産業革命の胎動にいち早く気づいたものが次のチャンピオンになることを示唆している。

## ■ 3D革命の壁とアーキテクチャ戦略

日本にもかつて3Dで世界を席巻したベンチャー企業があった。紙の図面をいっさい省き、フリーターを活用して3D設計を行うことで、携帯電話用の精密金型を短納期でつくるという徹底したモジュール化活用企業だったが、自動車分野に進出してつまずいた。ここに3Dの限界と課題が隠されている。3Dは組み合わせ型のモジュラーの領域では活きるが、すり合わせ領域ではひと工夫もふた工夫も必要となる。

1980年代にモノづくり日本に負けた米国は「仕組み」を考え抜き「ルール」を変えた。それが「モジュール化戦略」だ。乗用車の開発には2～3万点もの部品をすべて調整する「すり合わせ」が必須であり、日本の自動車産業は今でも強い競争力を保つ。これに対し、ICTを活用して組み合わせによる多様でスピーディなイノベーションの連鎖で圧倒するのが「モジュール化戦略」である。シリコンバレーの成功がそうであり、日本企業のような自前主義・社内一貫型ではモジュール化時代における技術革新の超常的なスピードに追い付くことは難しい。

## ■ 日本の戦略私論：二正面作戦

今こそ日本企業に必要なのは、モジュール化とすり合わせの「二正面アーキテクチャ戦略」だと考える。時価総額2兆円超のコマツなどモジュール化戦略を活用し成功する日本企業は確かにある。トヨタも対顧客ではすり合わせ型だが、異車種間で5割もの部品を共有化して強烈な原価低減力を確保しており、日産も今年からモジュール設計、共有化手法を融合させ、効率よい設計を目指すという。

また、得意のすり合わせ型でもさらなるバージョンアップが必須だ。レアメタルをはじめベースメタルの資源枯渇の危機が静かに迫っている。日本の自動車・家電業界はすり合わせで原価低減を進めてきたが、資源負荷はむしろ増えており、省資源型の「すり合わせバージョン2.0」を目指さなければならない。マテリアルフローをよく分析すれば、資源負荷や$CO_2$削減だけでなく競争力向上にもつながる。その際、強い武器となるのが折り紙工学だ。3Dプリンタと折り紙工学、すり合わせver.2.0は非常に相性が良いことに気づく。パーソナル3Dプリンタを契機とする新産業革命の胎動は、様々な企業に対して大きな飛躍のチャンスをもたらすだろう。

## 参加者の声

- 3Dプリンタの“力”を再認識した。
- 3Dプリンタだけでない新しいビジネスのチャンスを聴くことができた。
- 現代の産業界の潮流を引用した魅きつけられる内容だった。すり合わせやモジュールについては、いろいろと考えを広げる視点の示唆となった。
- 話題が多岐にわたりあっという間のセッションだった。
- 多くの示唆深い情報をいただいた。ありがとうございました。

第3回

# IT融合時代を迎えて あるべき姿の国家情報化

廉（ヨム） 宗淳（ジョンスン） 様

## 講義概要

既存の産業とＩＴが融合し新しいビジネスモデルが誕生する「IT Conversions（ＩＴ融合）」が、情報化のキーワードになっている。韓国では10年前から国策として「IT Conversions」に力を入れ行政・企業が一体となり改革を行った結果、国民が行政・民間サービスを効率的に受けられる世界トップクラスのＩＴ先進国になった。韓国の取り組みを紹介しつつ、「イノベーション」とは何かを示唆する。

## ■ KTX（韓国高速鉄道）、仁川国際空港、アサン病院の事例

韓国のKTXには改札口がない。車掌は無線端末で座席の予約状況を一覧できるため、乗客はチケットさえ予約すればそのまま電車に乗ることができる。改札がないことによる不正乗車の損失金額と高性能な改札機を導入した場合の設置費やメンテナンス費を天秤にかけると、ＩＴを活用して改札口をなくすのも一つの選択肢として考えらえるのではないだろうか。
世界一サービスの良い空港に選ばれた仁川国際空港では、事前に集約された搭乗データによって人の流れや荷物の受け渡しが全てシミュレーションされている。その結果、出入国にかかる平均所要時間は入国18分、出国14分とかなりスピーディに行われている。またＩＴを活用した空港運営のビジネスモデルを海外に輸出しており、イラクのアルビル空港やロシアのハバロフスク空港など様々な国で導入されている。
アジア最大級の病床数を誇る「現代アサン病院」は、CT、MRIの空き状況や病室、手術室の利用状況をPOSで一元管理しているため、一日に約1万人訪れる外来患者の診療が効率よくなされている。韓国の大規模病院の多くは受付がなく、来院者は「導線誘導機」に診察券を入れて訪問科の場所や行き方の案内を受ける。また支払いも「診療費収納機」で行い、薬は処方箋発行機で受け取りたい薬局を指定し、薬局の窓口で直接受け取る。紙の処方箋を発行する必要はない。

## ■ 行政分野でのIT活用

韓国では住民票の移動手続きをインターネットで行うことができ、同時に健康保険や年金、雇用保険、運転免許証、学校の転校届などあらゆる情報が一括して変更できる。また銀行と役所のシステムが連携しており、顧客が住民登録番号を入力すると、行員は専用端末で住民票が確認でき、スムーズに本人確認が行える。さらに領収書を多数発行する病院などは国税と連携しているため、年末調整に向けて領収書を集める必要もない。
韓国の電子行政が10年間で使った費用は、メンテナンス費も含めて累計約2兆円といわれるが、その2兆円を日本は毎年使っている。自治体も統一されていないパッケージを使っておりコスト負荷も高い。人口とＩＴコストは比例するものではないし、韓国の行政の仕組み、都道府県や各省庁の役割は日本の形式と類似しているので、日本にもできないことはない。韓国の事例には省庁や自治体という枠を超えた連携のヒントが多々あると思う。

## ■ 真の情報化とIT Conversions

「真の情報化」とは、あらゆる分野において既存の業務と情報技術を融合させ、革新的な新しいサービスを創出することである。「イノベーション」とは改善ではなく、過去と断絶した手段によって革新を起こすことであり、ＩＴを使って何かを変えていくときには、いったん現状を否定してみる必要がある。日本のＩＴベンダーをはじめＩＴに携わる人は「真の情報化」によってイノベーションを興し、より豊かなサービスを提供していかなければならない。ＩＴを武器に従来のビジネスモデルを大きく変えるという気概を持って、イノ ベーションにチャレンジしてほしい。

## 参加者の声

- 強く共感する。
- 日本の行政は無駄が多いように感じた。企業も同様である。当たり前のことを見直し、改善する必要性を感じた。
- 知見として刺激的であり、世の中を変えようという心意気に感銘を受けた。
- 「できない」のではなく「どうすればできるのか」を考えることが重要。
- とても興味深いお話で有意義だった。ありがとうございました。

# 第4回　我が国農業の可能性

神成 淳司 様

## 講義概要

農業先進国と言われるオランダやイスラエルの農業が世界的に注目され、日本への導入を望む声が出ているが、単にやり方を模倣しても日本の農業が継続的な発展を遂げることは難しい。超高齢社会の到来や人口爆発による世界的な食糧危機が間近に迫るなか、日本の農業の特徴や既存の取り組みを見ながら、今後の日本の発展に寄与する農業の産業化の方向性について言及する。

## ■ 日本の未来と農業の現状

2050年の日本は約4人に1人が75歳以上を占め、医療介護費などの社会コストが急増する一方で、労働人口は減り続ける。社会を破綻させないためには、価格競争に陥らず、中長期的な優位性を保ちながら高齢者も稼げる産業が必要であり、それが農業だと確信している。

約260万人いる日本の農業従事者は世界でも高齢化が突出しているが、70歳を過ぎても年収1,000万円を超える農家が多く存在し、米国やフランスなどと比較しても生産性が高く、高品質の農産物を生産する技術を有している。2050年に世界の人口は90億人に達するとされ、世界規模での食糧危機が懸念されるなか、農業は今後の主要産業になる可能性が高い。日本は熟練農家の優れたノウハウを活用し、稼げる農業をより多くの人に広め、ＩＴを活用して優れた農業技能を世界へ輸出する、農業の“Made by Japan”化を推進していくべきだ。

## ■ オランダとイスラエルの事例

オランダの農業は、徹底したコスト管理のもと広大な土地で大量生産を行い、高い収益率を確保している。高い生産性を保つために温度や湿度、日照など膨大なデータ収集と分析が行われており、土地に適した完成度の高い仕組みを構築している。味に関しては「育て方ではなく品種が決める」という考えが主流で、品質へのこだわりは日本と大きく異なる。このような規模拡大型のオランダ方式を日本に導入しても、周辺諸国との価格競争に陥れば、ビジネスとしての成功は難しい。

一方、イスラエルは食糧危機を見据えて、国家として熟練農家を集中的に育成してきた。味や品質にこだわった付加価値の高い作物は、欧州でブランドが確立している。イスラエル農業の特徴は「判断者」と「作業者」を明確に分けている点だ。国の農学研究所が農作物を育てる上で必要な状況把握や意思決定ができる人材を育成し、単純な作業は出稼ぎ労働者が担っている。国家として数十年かけてこの人材教育システムを作り上げた結果、若い世代の参画が進み、富裕層も生まれている。日本でも「判断者」と「作業者」を区分したソリューションをモデルにすることが今後の産業化の道筋と言える。

## ■ AI（AGRI-INFORMATICS）～農業におけるITの活用

私が提唱するＡＩ農業は、ＩＴを使って熟練農家が持つ栽培ノウハウをデータ化・蓄積し、次世代へ継承していくシステムだ。熟練農家の「状況判断能力」に着目し、いつ、何に気づき、どのような作業をしたのかを携帯端末で登録してもらい、そのデータをマイニングして「状況判断能力」の見える化を行っている。このシステムを使えば、熟練者に比べて自分に足りない気づきは何かを客観的に把握でき、判断能力をより早く習得できる。

今後は日本の熟練農家の匠の技を収益源として、ＩＴを活用しながら海外にもソリューションを提供していくことが期待される。栽培ノウハウをパッケージ化し、知財としての農業技術の保護を標準化することで、農業のサービス産業化が図れる。こうした取り組みが農業以外の様々な企業との連携を生み、ますます面白い産業へと発展していくと確信している。

## 参加者の声

- 大変刺激的な内容だった。
- ＩＴの活用が「農業」という全く考えていなかった分野で考えられた。
- ＩＴを使って効率化ではなく事業の付加価値化を行うというのは、日頃から取り組むべき方向だと考える。講義から大きなヒントをいただいた。
- 農業というテーマが大変興味深く、先生のお話が非常におもしろかった。グループディスカッションでのみなさんの意見が参考になった。

キッズ企画

■ 未来を担う子どもたちの夢・可能性を広げよう

# 職業体験プログラム

**FIFは2006年の設立当初から小中学生を対象とした職業体験プログラムを実施しています。トップとの対話や現場での体験をつうじて仕事の楽しさややりがいを体感し、早い段階から職業や社会に関心を持ってもらうことを目的としています。**
**2013年度は佐川急便株式会社と「物流の最前線」、ALSOKと「セキュリティの最前線」を実施しました。**

## コンセプト

### 働くカッコいい大人に会いにいこう！

**社会の“しくみ”の実感**

企業の役割や商品・サービスが提供されるまでの裏側をさぐり、いままで気づかなかった社会のし“しくみ”を実感する。

**社会人としてあるべき姿の模索**

企業のトップや働く大人たちとの対話をとおして、社会人としての理想像やリーダー像、将来の夢をより現実的に描く。

**働くことの楽しさややりがいを体感**

学校や家庭とはひと味違う、オフィスや工場での様々な体験をとおして、働くことの楽しさややりがいを体感する。

## プログラムの特色

参加者一人ひとりが“体験すること”を大切にするため、参加人数を10～20名に限定し、協力企業とともにそれぞれの企業の特色を活かしたオリジナルプログラムを企画しています。

### 企業・団体のトップとの対話、ふれあい

ふだん接する機会が少ない企業・団体のトップの方々の話をきいたり、直接質問したりすることで、仕事への情熱や経営に対する姿勢を学ぶ。

### 外部には非公開の場所やしくみの見学

関係者以外には公開することのない研究所やシステムなどを見学し、その企業・業界における最先端の技術やしくみにふれる。

### 現場での職業体験

店舗やオフィスで実際に行われている業務を大人といっしょに体験しながら、働いている人の想いやプロの仕事を肌で感じる。

## 物流の最前線

セールスドライバーの制服を着て荷物の配達実習を行い、物流センターの裏側を見ることで、物流のしくみを学習しました。今回6回目となる本プログラムには、のべ100名を超える子どもたちが参加しています。

| | |
|---|---|
| 日　時 | 2013年3月28日(木) 10:00～16:00 |
| 会　場 | 佐川急便株式会社 東京本社(東京都江東区) |
| 参加者 | 小学5、6年生の計19名 |
| 後　援 | 江東区教育委員会、品川区教育委員会 |

### 1 セールスドライバーの仕事を学習

「荷物とまごころ」を運んでいるという言葉が心に残った。

### 2 最新鋭の大型物流センターの見学

荷物の仕分けを自動でできることを知っておどろいた。

### 3 大型トラックなどの乗車体験

### 4 天然ガストラックの排気ガス実験

### 5 荷物の配達実習

配達を自分で実さいに体験できておもしろかった。

### 6 栗和田榮一会長との質疑応答

これからは佐川さんにたくさん荷物をたのみたいです。

### 7 記念撮影

創業当時から受け取る人の立場に立って荷物を届けることをモットーとしている。この体験を通じて、子どもたちが将来は相手に喜んでもらえる仕事に就きたいと思ってくれたなら意義深い。また自分のために日々頑張って働いているお父さん、お母さんに感謝の気持ちを伝えてほしいと思う。

佐川急便株式会社会長　栗和田 榮一 様

## セキュリティの最前線

今回初実施となる本プログラムでは、警備情報を集約するガードセンターへの訪問や警備ロボットの見学、機械警備の体験をつうじて、人と機械の力で社会の安全・安心を守る警備のしくみについて学習しました。

| | |
|---|---|
| 日　時 | 2013年8月7日(水) 10:00～15:00 |
| 会　場 | ALSOK本社(東京都港区)ほか |
| 参加者 | 小学5～6年生の計19名 |
| 後　援 | 品川区教育委員会 |

### 1 東京ガードセンターで警備の仕事を学習

### 2 機械警備の体験

### 3 AEDの操作体験

ふだんはできないAEDの操作や心ぞうマッサージの練習ができてよかった。

### 4 警備輸送車両の見学

### 5 警備ロボットの見学

ロボットが顔を認しきして、その人のあとを追いかけた。最新の技じゅつにおどろいた。

### 6 青山幸恭社長からのメッセージと質疑応答

青山社長の「ありがとうの心」と「武士の精神」をもって働いているという言葉に感動した。

### 7 記念撮影

お客様の安心・安全をどのように守っているのかを実際に見て、感じてほしかったが、子どもたちの感想を聞くと十分に伝わっているように感じた。子どもたちには命の大切さや人の気持ちがわかる大人に成長してほしい。わずかな時間だが、今回の体験がそのきっかけになることを願っている。

ALSOK社長　青山 幸恭 様

# 職業体験プログラム 参加者の声

職業体験プログラムの終了後、参加した子どもたちと保護者の方々を対象にアンケートを実施し、プログラムの見直しや運営の改善に役立てています。皆様からいただいた声を一部紹介します。

## 質問1 参加してみてどうでしたか?

楽しかった 8%
とても楽しかった 92%

## 質問2 訪問した企業の仕事内容や社会で果たしている役割がわかりましたか?

わかった 16%
とてもわかった 84%

## 質問3 印象に残ったことはなんですか?

### 物流の最前線

- とっても楽しくて勉強になった。(小5男子)
- セールスドライバーさんが、荷物と真心を運んでいること。(小5男子)
- トラックのいろいろな部分が見られたこと。(小5女子)
- 名し交かんを初めてやって、どうやるのかを知った。(小5女子)
- 物がどのように運ばれるかと荷物の仕分け方を知ることができて、おもしろかった。(小6男子)
- 普通はできない体験ができた!(小6女子)

### セキュリティの最前線

- AEDの使い方が分かった。(小5男子)
- ロボットがパトロールをしていることにおどろいた。(小5女子)
- ぼくは家にアルソックの警備がないので、とても勉強になりました。(小6男子)
- 機械をうまく取り入れていて、グローバルな会社だと思った。(小6男子)
- ALSOKの人がお金もあつかっていること。(小6女子)
- 防だんチョッキがとても重かったです。(小6女子)
- 人間が警備できないところは、機械が警備していること。(小6女子)

### 保護者の声 物流の最前線

・息子は物流の速さの秘密を知りたがっていたので、ベルトコンベアなどを目の当たりにして非常に感動していました。実際に配達業務を体験させていただき、働くことや大人になることに対して非常に前向きなイメージをつかんで帰宅してきました。感謝しています。

・帰宅するなり当日の様子を熱く語ってくれました。特に佐川急便が思っていた以上に多くの方が働き、また天然ガス車を多く保有したり制服がリサイクルで作られていたりなど、環境にとても配慮した会社であることを知り、「本物の企業は自分の知らないことだらけだ」ということを学んだようです。

・「真心を届ける佐川急便で働きたい」と言っています。もしダメでも、多くの人に喜びや感動を与えられる仕事がしたいそうです。

・子どもにとって難しすぎず、少し背伸びをするぐらいのレベルのプログラムだったので、子どもが自発的に取り組めたことが最もよかったと思います。

・会長にお会いし、お話しできたことは、普段小さな社会で生活していた息子にとって衝撃的だったようです。今後外に目を向けるきっかけになったように思います。

・大人のルールを垣間見る貴重な機会でした。お蔭様で息子は一回り大きくなって帰って来たように感じます。子どもにとって大事な第一歩を恵まれた環境の中で踏み出せたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

### 保護者の声 セキュリティの最前線

・当日の様子を楽しそうに報告してくれました。体験や見学の時間が多かったので楽しく学ぶことができたようです。「こんなシステムがある」「こんなロボットがある」「安全を守る人はすごいなぁ」と言っていました。

・娘の希望していた社長さんとのお時間をたっぷり作っていただき、いろいろなお話が聞けて楽しかった、親切に声をかけてくれてうれしかった、と申しております。何日も前から楽しみしていたのですが、とても満足して帰ってきました。

・最初は緊張したそうですが、みなさんと泥棒を捕まえる体験を通じて協力することが楽しいと感じ、まわりの方たちと話すことができたと言っていました。夏休みにとても充実した体験ができました。ありがとうございました。

・実際に仕事現場を見せていただき、視野を広げるとても貴重な体験でした。余談になりますが、朝のラッシュ時の電車に乗り、「パパは毎日これに乗ってお仕事に行ってるんだ」ということに気づいたようです。私自身も実際に体験することの大切さを感じました。

・ALSOKさん、FIFさんの社会貢献に対する姿勢は本当にすばらしいと思います。そして、親である私たちもみなさんの思いをしっかりと受け止め、やがては子どもたちを社会の一員としてお返しできるように子育てを続けたいと思いました。本当にありがとうございました!

キッズ企画

## ■ 未来を担う子どもたちの夢・可能性を広げよう

# 職場訪問デー

新企画

**昨今「キャリア教育」の一環として、職場訪問の受け入れ企業をさがす中学校や職業体験の機会を求める保護者の要望が高まっています。こうした状況を受け、より多くの中学生に職場訪問の機会を提供すべく、コマツ、首都高速道路株式会社、フューチャーアーキテクト株式会社の3社が協力し「職場訪問デー」を実施しました。**
**複数社で協力して、子どもたちの受け入れを企画するという初の試みに、約60名の中学生が参加しました。普段は見ることのできない工場の内部や管制室などを見学し、社員の方との質疑応答をとおして働く人たちの思いにふれました。**

## コマツ湘南工場

ハイブリッド油圧ショベルの心臓部分である電子部品をつくる工程を見学し、実際の部品を使った組み立て体験を行いました。油圧ショベルの操作も見学し、日本が世界に誇る建設機械の技術の高さを体感しました。

**日　時**　2013年8月8日（木）13:00～16:00

**会　場**　コマツ湘南工場（神奈川県平塚市）

**内　容**　①会社紹介　②工場見学　③体験実習　④質疑応答

**参加者の感想**

・ものづくりは好きなので楽しかったです。一日ありがとうございました。
・コマツが世界に工場をたくさん展開していることを初めて知りました。
・「自分がやりたいことができる会社がその人にとっての良い会社だ」というお話が心に残りました。

建設機械の見学

体験実習

質疑応答

## 首都高速道路株式会社 西東京管理局

リアルタイムに交通情報が集約される交通管制室やトンネル内の排気をコントロールする設備を見学しました。
また、パトロールを行う特殊車両の乗車体験もし、首都高の安全を守る仕事を体感しました。

**日　時**　2013年8月20日(火)13:00～15:30

**会　場**　首都高速道路株式会社西東京管理局(東京都千代田区)

**内　容**　①会社紹介　②交通管制室の見学　③特殊車両の見学　④質疑応答

**参加者の感想**

・交通管制室のモニターの前で365日道路を見ているのはとても大変だけれど、そのおかげで車が安全に走っていることがわかった。
・1つひとつの質問に真剣に答えてくださり、とても分かりやすかった。

交通管制室の見学

特殊車両の乗車体験

排気設備の見学

## フューチャーアーキテクト株式会社本社

ＩＴコンサルティングの仕事について学習したあと、プログラミング教育アプリケーション「Scratch」を使って実際にプログラミングを体験しました。またチームで動画作品づくりに挑戦し、発表会を行いました。

**日　時**　2013年8月19日(月) 14:00～17:00

**会　場**　フューチャーアーキテクト株式会社本社(東京都品川区)

**内　容**　①会社紹介　②オフィス見学　③プログラミングの体験学習

**参加者の感想**

・ＩＴコンサルティングの仕事の幅の広さに驚いた。
・みんなで協力して作品を作ったのが、すごくたのしかった。
・プログラミングは将来使うかもしれないので勉強になった。

プログラミング体験

作品発表会

参加者の作品

復興支援活動

■ 子どもたちの笑顔で東北を元気にしよう

# スマイルプロジェクト

**ＦＩＦは東日本大震災発生直後から「子どもたちの笑顔で東北を元気にしよう！」をコンセプトに様々な支援活動を行っています。2013年度は昨年に続き、宮城県石巻市でボランティア活動を行ったほか、首都高速道路株式会社が主催する支援プロジェクトに運営協力しました。**

## 石巻ボランティア

NPO法人「にじいろクレヨン」協力のもと、石巻市を定期的に訪問し、子どもたちと一緒にレクリエーション活動を行いました。また仮設住宅で暮らす人たちと交流を図りながら、コミュニティ形成の支援を行いました。

**実施回数**　全4回のべ8日間（2013年2月～8月、1泊2日）

**訪問場所**　宮城県石巻市内の仮設住宅

**参加人数**　子どもたち：のべ100名
ボランティア：のべ19名

**ボランティア参加者の感想**

・子どもたちは予想よりもはるかに元気で逆にパワーをもらった。
・仮設住宅で暮らす人たちとふれあって現状を知ることは大切だと思った。
・コミュニティの大切さを改めて感じた。被災地が抱える多くの問題も、人と人とのつながりをつくることで解決できるのではないかと思う。

## 東京へようこそ！ 1泊2日ツアー

昨年に続き、首都高速道路株式会社主催の子ども支援プロジェクト「東京へようこそ！1泊2日ツアー」に運営協力しました。東日本大震災の被災地である福島県いわき市の親子38名を東京へ招待し、夏休みの楽しい思い出をつくってもらいました。

**日　時**　2013年7月25日(木)～ 26(金) 1泊2日

**招 待 者**　福島県いわき市の小学6年生とその保護者19組38名

**内　容**　1日目：首都高の施設見学
交通管制室、大橋連結路シールドトンネル工事の現場
大橋換気所屋上の自然再生緑地「おおはし里の杜」見学

2日目：首都高を使って東京観光
（東京タワーや浅草など）

# プレスクリッピング集

**2013年度も職業体験プログラムを中心に、日本経済新聞やマイナビニュースなど多数のメディアで紹介されました。**

| 日　付 | 媒　体 | 見出し |
|---|---|---|
| 2.04 | マイナビニュース | 佐川急便で1日職業体験を実施！　小学5、6年生20名を募集 |
| 2.19 | リセマム | 小学生が佐川急便の荷物配達、5・6年生対象の職業体験プログラム |
| 3.28 | LNEWS | 佐川急便／小学生19人が宅配便の職業体験 |
| 4.01 | 日本流通新聞 4面 | 子ども達が配達実習～佐川急便で職業体験 |
| 4.26 | リセマム | 職業体験イベント参加5年後の追跡調査、半数が進路に大きく影響 |
| 6.11 | リセマム | 小学5・6年生対象、職業体験プログラム「セキュリティの最前線」参加者募集中 |
| 7.03 | 全私学新聞 6面 | 8月7日職業体験～小5、6年対象にALSOK |
| 7.04 | GakkenKidsnet | ALSOKのお仕事を体験しよう！ |
| 7.10 | 毎日小学生新聞 3面 | セキュリティの最前線～“ALSOKのお仕事”を体験しよう！ |
| 7.19 | リセマム | 中学生対象、夏休み「職場訪問デー」コマツや首都高など3社職場を見学 |
| 7.20 | 毎日小学生新聞 4面 | 職場訪問デー2013～中学生45名を募集 |
| 7.26 | Car Watch | 首都高、福島県いわき市の子供達を首都高施設見学に招待～道路管制室やパトロールカーを公開 |
| 7.26 | 建設通信新聞 公式記事ブログ | 【首都高】いわき市の親子招き「子ども支援プロジェクト」を開催 |
| 7.26 | 日刊建設工業新聞 | 首都高速会社～大震災被災地の子どもたち招待～東京1泊2日ツアー開催 |
| 7.26 | 日刊建設産業新聞 | 被災地の小学生を招待～交通管制室や工事現場案内 |
| 7.26 | 建設通信新聞 | いわき市の親子招き開会式～首都高「子ども支援プロジェクト」 |
| 7.27 | 日本経済新聞 35面 | 夏休み 子供に働く夢を～首都圏の企業 将来の人材育成 |
| 7.29 | 交通毎日新聞 | 首都高子ども支援プロジェクト～いわき市の小学生を招待、施設見学や観光で思い出づくり |
| 8.07 | マイナビニュース | 「吉田沙保里さんはどんな仕事?」― 小学生が職業体験でALSOK社長に質問！ |
| 8.08 | JCNみなと新宿 ケーブルテレビ | 警備ってどんな仕事？子ども職業体験 |
| 8.16 | 毎日jp | 「セキュリティの最前線」～警備会社の仕事を体験するプログラムがALSOKで |
| 8.16 | 毎日小学生新聞 8面 | 警備会社の仕事を体験 |
| 8.21 | 警備保障タイムズ 5面 | セキュリティの最前線～小学生が体験 |
| 8.25 | セキュリティ産業新聞 1面 | 小学生19名が職場体験～ALSOK「セキュリティの最前線」を～ALSOK/FIF |
| 8.25 | セキュリティ産業新聞 2面 | セキュリティ最前線の貴重な現場を体験～子ども達の夏休み最高の贈り物に |
| 8.25 | 警備新報 3面 | 警備の“今”を学ぶ～小学生5・6年19人が参加 |
| 11.11 | 地域教育推進ネットワーク東京都協議会HP | 『小中学生を対象にした職業体験プログラム』<br>～“普段はできない”体験や対話をつうじて「仕事」について学ぶ～ |

# 物流の最前線

## 日本流通新聞
2013年4月1日付

# 子ども達が配達実習
## 佐川急便で職業体験

社会貢献活動を行う団体であるフューチャーイノベーションフォーラムと佐川急便は28日、東京・江東区の佐川急便東京本社で小学5、6年生を対象とした職業体験プログラムを実施した。

「子どもたちに社会の仕組みや働くことについて考える機会を提供することが目的で、今回で6回目となる佐川急便の職業体験では、子どもたちが佐川急便の制服を着用し、実際のオフィスに荷物を配達する「配達実習」を行った。

荷物を持った子どもたちは、内線電話で「お荷物を配達に来ました」と伝え、オフィスのドアを開けてもらうとカウンター越しに「○○様に○○様からのお荷物をお届けに参りました。こちらに受領印をお願いいたします」と元気よく配達していた。

昨年12月に新設された都内最大規模の佐川東京ロジスティクスセンターで最新鋭の自動仕分け機などを見学し、各自の自宅宛の荷物（職業体験のお土産）をベルトコンベアで発送する体験も行った。

「お荷物をお届けに参りました」と元気よく配達実習を行った

## LNEWS
2013年3月28日

# セキュリティの最前線

## 毎日小学生新聞
2013年8月16日付

MAINICHI 毎日新聞 毎日小学生新聞

2013年8月16日(金) 第面

### 警備会社の仕事を体験

警備会社の仕事を体験するプログラム「セキュリティの最前線」が7日、綜合警備保障会社「ALSOK」(本社・東京都港区)で開かれました。小学5・6年生19人が参加し、通報を受ける基地局の見学や、警備を体験しました。【福口裕子】

ヘルメット、防弾チョッキ、防弾警戒服を身に着けて、警備の仕事を体験しました

ALSOKのおもな仕事は、侵入者や車両スカイツリー、フジテレビなどの施設警備▽マラソン大会、花火大会などの雑踏警備▽ATMの現金を輸送する時の輸送警備▽要人などの身を守る身辺警備――の四つです。

施設警備の場合、センサーから警報が基地局に送られてくる機械警備システムで異常を見張ります。都内にある基地局「東京ガードセンター」は、都内全域の約9万件の警備システムを24時間体制で監視しています。広い部屋にパソコンがずらりと並び、赤のランプが光ると、監視員がすばやく受話器を取り上げていました。東京では1日1300件の通報があるそうです。

監視員とガードマンに分かれて、機械警備の仕事を体験しました。監視員役はセンサーから送られてきた画像を見て、不審者を確認すると声で指し、ガードマン役に現場に急行するよう指示を出します。現場に駆けつけたガードマン役は、不審者を特殊警戒棒で撃退、逃走した不審者の特徴を伝えました。

山口ひなたさん(東京都目黒区立東山小6年)は、「どんな仕事をしているか、興味がありました。職場体験は楽しかったけれど、実際は大変な仕事だと思います」と感想を話しました。

このプログラムは、企業と連携して社会貢献活動を行っている「フューチャー イノベーション フォーラム」とALSOKが共同で運営、企画したオリジナルプログラムで、今回初めて開かれました。

24時間体制で監視する「東京ガードセンター」を見学しました

## マイナビニュース
2013年8月7日

## JCNみなと新宿「週刊みなしんワイド」
2013年8月10日放送

# 追跡アンケート調査

## リセマム

2013年4月26日

トップ / 教育・受験 / 学習

### 職業体験イベント参加5年後の追跡調査、半数が進路に大きく影響

2013年4月26日(金) 19時32分

特集 特色のある大学、伸ばす大学

教育イベントに関する記事

Ads by Google

フューチャーイノベーションフォーラム（FIF）は4月26日、5年前に実施した「職業体験」や「IT教室」に参加した子どもたちの成長を追跡調査を発表。回答者の半数がエンジニア・航空・宇宙・ロボット・エネルギーに強い関心を持っていることがわかった。

FIFは、2008年の発足から現在までに計53回のプログラムを開催し、のべ1,720名の子どもたちが参加しているという。同調査は、2008年度実施イベントの参加者105人（当時小学3年～中学3年生、現在中学2年～大学2年生）を対象にアンケートし、35人の回答を得た。調査期間は、2月6日～4月5日。

プログラム参加後、考え方や進路に変化があったか尋ねたところ、「あった」46%、「なかった」54%。今でも心に残っていることは、「ある」91%、「ない」9%で、5年経った今でも強く印象に残っていることがわかった。

今後どのような仕事を体験してみたいか尋ねたところ、1位「エンジニア・プログラマー」17.1%、2位「鉄道・航空関連」14.3%、3位「ロボット・宇宙関連」11.4%、「エンターテインメントビジネス」11.4%、5位「エネルギー・バイオ関連」8.6%、「病院関連」8.6%となり、科学・理数分野の職業が上位を占めた。プログラムには、科学、理数系分野の要素を多く取り入れていることから、参加者の進路に影響していることが伺える結果となった。

フリーコメントでは、「参加したことで環境問題に興味を持つようになり、現在環境について学べる高校に通っています。」（トヨタ自動車「カーデザインの最前線」の参加者）や、「これをきっかけにパソコンが好きになりました。これからC言語に挑戦する予定です。」（パソコン組み立て教室の参加者）などが寄せられた。

（工藤めぐみ）

# 職場訪問デー

## リセマム

2013年7月19日

トップ / 教育・受験 / その他

### 中学生対象、夏休み「職場訪問デー」…コマツや首都高など3社の職場を見学

2013年7月19日(金) 13時59分

特集 特色のある大学、伸ばす大学

夏休み（工場見学）に関する記事

Ads by Google

フューチャー イノベーション フォーラム（FIF）は、8月8日（木）、19日（月）、20日（火）に「職場訪問デー2013」を開催する。コマツ湘南工場、首都高速道路 西東京管理局、フューチャーアーキテクトとの協力で実施され、対象は中学生。参加費は無料。

FIF「職場訪問デー2013」　FIF公式サイト

FIFは「ITイノベーションによる豊かな社会づくり」を目的とした団体。2006年の設立以来、子どもたちにより早い段階で働くことや仕事について考えてもらえるよう、さまざまな企業と協力し、職場体験や出張授業を行ってきた。今回のように複数企業で協力して職場訪問プログラムを行うのは初めての試みだという。

実施日によって見学できる企業が異なり、8日（木）に実施されるコマツ湘南工場のプログラムでは、油圧ショベルのコンポーネント工場の見学が行われる。19日（月）はフューチャーアーキテクトで、職場見学とプログラミングの体験学習、20日（火）は首都高速道路 西東京管理局で、最新の交通管制システムが見学できる。

申込みはFIF公式サイトの申込専用ページから。各社15名ずつ、合計45名の募集で、締切は7月28日（日）。応募者多数の場合は抽選となる。

# 東京へようこそ！1泊2日ツアー

## 建設工業新聞

2013年7月26日付

首都高速会社

### 大震災被災地の子どもたち招待

## 東京1泊2日ツアー開催

首都高速道路会社は、東日本大震災で被災した福島県いわき市の小学生と保護者20組40人を東京に招き、25日から26日にかけて首都高の関連施設を巡るツアーを行っている。「首都高子ども支援プロジェクト」の一環で、首都高の安全を支える交通管制システムがある西東京管理局（東京都千代田区）の交通管制室や、大規模なシールドトンネルの工事現場などを見学。参加した子どもたちは、被災地から離れた東京で夏休みの思い出づくりを楽しんでいる。

ツアーは、子どもたちの職業体験などを企画・運営する「フューチャーイノベーションフォーラム（FIF）」の協力を得て実現した。

初日は、交通管制システムを備えた西東京管理局の見学会の冒頭、首都高速会社の宮田年耕取締役常務執行役員は「東京都心から（福島県の）いわき市までの距離は約200キロで、首都高の道路延長は300キロとさらに長い。その300キロのほとんどが橋やトンネルでできている。首都高を使って東京のいろんな場所を見てもらいたい」とあいさつした。

西東京管理局での見学会には首都高を利用した観光として東京タワーや浅草などを見て回る予定だ。

写真＝のほか、シールドトンネル工事現場や大橋ジャンクション（東京都目黒区）内に設けられた「おおはし里の杜」などを見学。26日

## お問い合わせ


### フューチャー イノベーション フォーラム

住　所:　〒141-0032　東京都品川区大崎1-2-2
アートヴィレッジ大崎セントラルタワー15階
（フューチャーアーキテクト株式会社内）

ＴＥＬ:　03-5740-5817

E-mail:　forum@future.co.jp


## ホームページ　http://fif.jp

最新のイベント情報や
活動報告を掲載しています。

## facebook　http://www.facebook.com/fif.2006

イベント情報やキャンペーンの
お知らせなどを随時発信しています。

発行:2014年4月

Future Innovation Forum